

日交研シリーズ A-677
平成 27 年度研究プロジェクト
「理想の移動・空間・活動に関する研究」
刊行：2017 年 3 月

理想の移動・空間・活動に関する研究
Research on Ideal Moving, Space and Activity

主査：金 利昭（茨城大学工学部教授）
Toshiaki KIN

要 旨

本研究は、移動に着目し、移動の本源的ニーズを明らかにしようと試みたものであり、平成 26 年度の研究プロジェクトで実施した「移動することの意味・価値」及び「理想の移動」に関する研究を発展させ、「移動」と「活動」の関係性を詳細に探り、以下の知見を得た。

- ① 平成 25 年度に実施した全国 7 都市圏の WEB 調査データの内、東京データを用いて目的別に理想の移動手段選択理由を分析し、移動の時空間を様々な活動にあてたいとする欲求があることを明らかにした。また通勤の有無に着目して買い物目的の理想の生活行動を分析した結果、通勤者に比べて非通勤者は理想の買い物頻度が高く、徒歩を選択する割合が高いことを明らかにし、非通勤者は通勤者に比べて相対的に移動量が少ないために移動したいという欲求を買物のような生活行動で満たそうとしているのではないかと考察した。
- ② 移動制約者を含めた多様な属性を有する個人にとっての移動の「正の効用」に着目し、移動の必要性と本源的な意味・価値を分析した結果、グループインタビュー調査により、楽しい移動及び困難な移動の状況について属性ごとに共通点と相違点が明らかになった。またアンケート調査によるにより節約したい移動についての支払い意思額が、学生と車いす利用者で、また移動の状況によって異なることを明らかにした。
- ③ 新しい移動サービスとしてカーシェアリングや自動運転の動向と課題を調査した結果、特に将来の交通の姿としてカーシェアリング依存や「Mobility as a Service (旅行者は出発地から目的地までの移動に必要なサービスをパッケージとして受け取る)」が着目されるものと考察した。

キーワード：移動の意味 移動の正の効用 理想の移動 MaaS

Keywords : Meaning of Moving Positive Utility of Travel Ideal Moving Mobility as a Service